

戦後七十年目の年にあたって

全日本仏教会（全国の各宗派宗教人が団結した組織）が、戦後七十年の節目に当たって、「戦争しない、させない」非戦の決議をしました。

「先の大戦では、日本で三一〇万人、全世界を見れば約八五〇〇万人という方々の尊く、かけがえない生命が戦火によって犠牲になりました。ここに、衷心より哀悼のまことを捧げるものであります。

仏陀は『法句経』に、「怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みのやむことがない。怨みをすててこそやむ。これは永遠の真理である。」
「すべての者は暴力におびえる。すべての生きものにとって生命は愛しい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」と、平和を実現するために反平和的手段（武力行動）をと

ることを最も戒められました。

戦時中、教団や僧侶中には非戦を
つらぬいた者もありましたが、多く
は戦時体制に呑み込まれ、追従し、人類としても
つともおろかな行為である戦争に加担・協力して
きました。仏陀の教えに照らして、こうした過去
に慚愧とともに真摯に向かいあい、犠牲になられ
たお一人お一人の願いを受けとめて、二度と戦争
をしない、させないという思いを強く、新たにす
るものであります。

平和とは、ただ戦争がないということにとどま
るものではありません。すべての「いのち」の尊
厳がまもられ、基本的人権が尊重され、言論・思
想信仰の自由が大切にされている社会であること
が肝要であります。」と結んで、仏陀の「和」の精
神を基調に仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄
与して行くことを誓いました。（十一月六日）

新春初護摩法要は

ご先祖をまつる菩提寺常楽寺で

新春初護摩法要は、常楽寺本堂で、午前〇時
から厳修されます。

除夜の鐘、百八つの梵鐘の打ち鳴らしは、大晦
日十二月三十一日の午後十一時から始められま
すが、その前にお出掛けいただいた方々には、整
理券をお渡しいたします。また、記念品も準備

いたします。

境内には、昨年以上に灯明をともし、寺の境内
全体を幻想的な光で包んで、「ご先祖様の靈を慰
めるとともに、来る年をこの清浄な光で清め、より
良い年としてお迎えいたします。

家内安全

開運厄除

交通安全

商売繁盛

福寿増進

上記の祈願の護摩札を「ご希望くださる方は、各地区の役員さんか寺へお申
込ください。お電話でもお受け致します。なお、「祈願される方の氏名も正確
にお知らせください。」「祈願の献酬料（けんさんりょう）は、三千円です。
お申込いただいた護摩札は、新春初護摩法要で「祈禱して、お渡しいたし
ます。

また、別紙「案内いたしましたように、「常楽寺 開運厄除け 名入れ福運
願」ご希望の方は、たるまの大きさ、名入れすべき氏名など正確にお書きいた
だき、代金を添えて、申込用紙をそのまま「提出下さい。

除夜の鐘の打ち鳴らしは、午前十一時よりはじめます。

初護摩法要は、午前〇時からと、早朝九時より厳修します。ご参加下さい。

